

ASEAN+3ユース環境フォーラム 2010 結果概要報告書

**“ASEAN PLUS THREE YOUTH ENVIRONMENT FORUM 2010(AYEF2010):
CREATING A CLIMATE FOR CHANGE”**

2010年4月22-25日

於：ブルネイ・ダルサラーム

エコ・リーグ（全国青年環境連盟）

目次

0. AYEF2010 開催まで.....	2
I. 開催の背景.....	2
II. 日本人参加者選定.....	2
III. 日本人参加者事前研修会.....	3
1. AYEF2010 概要.....	4
2. プログラム.....	5
3. 内容報告.....	7
1 日目.....	7
2 日目.....	9
3 日目.....	13
4 日目.....	14
4. 参加者からの声.....	16
◆ 上原翔吾.....	16
◆ 佐藤裕基.....	18
◆ 立石 かをり.....	20
◆ 高尾 育穂.....	23
◆ 建部 祥世.....	24
報道採録.....	26
AYEF2010 報告会 旭川 実施状況 【報告】.....	30
ステイトメント（原文）.....	33
ステイトメント（日本語仮訳）.....	37
日本のカントリープレゼンテーション.....	40

0. AYE2010 開催まで

I. 開催の背景

ASEAN 諸国でのユースフォーラムは 2005 年度から、ASEAN 連合において環境教育を担当するブルネイ・ダルサラームが中心となり、これまでに 2 回実施されている。また、2009 年に開かれた日中韓環境教育ネットワーク (TEEN) 会合には、ブルネイの担当官も日本を訪れ、日中韓と ASEAN の環境教育における連携について意見を交わすことになっていた。同時期、日本の環境大臣の提案により、日中韓で環境活動に従事するリーダー格の学生が日本に集まり、意見を交わす日中韓環境学生サミット (TESS) が開催された。その成果発表を、TEEN 会合にて発表したところ、ブルネイ担当官より、TESS 参加学生をブルネイにて開催予定の ASEAN 環境ユースフォーラムに招待したいとの意向をうけた。ここから、ASEAN および日中韓地域の更なる協力、東アジア地域のネットワーク強化を若者の環境教育といった視点から始めるため、ASEAN ユース環境フォーラムに日中韓のユースも参加し、ASEAN+3 ユース環境フォーラムとして開催することとなった。特に、日本からは日本・ASEAN 統合基金を通じて ASEAN+3 ユース環境フォーラム実施への支援を行うこととなった。

II. 日本人参加者選定

日本人参加者の選定にあたっては、2010 年 3 月 18 日から 25 日の一週間、メーリングリストを中心に、web サイト等でも募集を行った結果、13 名の応募があった。その中から活動実績や語学力とともに、地域、男女、活動領域等のバランスを考慮しつつ選考を行った。その結果、以下の 5 名が、参加者として選定された。

名前	上原 翔吾	佐藤 裕基	立石 かをり	高尾 育穂	建部 祥世
所属	京都大学大学院 農学研究科 森林科学専攻	旭川医科大学 医学部 医学科	上智大学 法学部 地球環境 法学科	横浜市立大学 国際総合科学部 国際経営コース	筑波大学 日本語・日本文 化学類
学年	修士 1 年	5 年	3 年	2 年	1 年
活動分野、 評価ポイント	生物多様性、 語学、学問分野 における実績	水、 語学、国際会議 経験、市民活動	気候変動、 語学、大学ベース の草の根活動	環境全般、 チャレンジ精神、 ビジネス感覚、発	気候変動、 語学、発信力

Ⅲ. 日本人参加者事前研修会

ASEAN+3ユース環境フォーラム当日の約2週間前に当たる4月11日（日）13時～17時、東京都内において参加者全員が一堂に会する事前勉強会を開催した。

事前勉強会の目的としては以下の通り。

- ・ 参加者の顔合わせ
- ・ 日本および海外のユースによる環境活動についての全体像把握
- ・ 英語による議論に慣れること、国際会議参加の心構えを身に付けること
- ・ フォーラム事前課題（Country Paper）の準備をすること

事前研修当日プログラム

12:30-	受付
13:00-13:10	会議に関する基礎情報
13:10-13:35	日本、アジア、世界のユース活動
13:35-13:50	アイスブレイキング 「Who am I?」
13:50-14:50	チームビルディングアクティビティ 「Zin Obelisk」
14:50-15:05	休憩
15:05-16:05	国際会議ディスカッショントレーニング 会議三日目の Group Discussion を想定したディスカッショントレーニング 「10 activities that they would like to do in their respective countries with the governments」 「10 simple ways' ASEAN citizens can do in responding climate change (10 advocacy bylines)」
16:05-16:20	休憩
16:20-16:40	事前提出資料 Country Paper（日本の環境活動について）の分担決め
16:40-17:00	本番に向けた事務連絡等

1. AYEF2010 概要

開催日程： 2010年4月22日(木)～25日(日)

開催地： ブルネイ・ダルサラーム (The Empire Hotel and Country Club)

参加者： 15歳から25歳のユース140名

- ✓ ASEAN諸国・中国・日本から各国5名、韓国から3名、
- ✓ ブルネイから80名

言語： 英語

主催： ブルネイ・ダルサラーム、ASEAN事務局

ファンド： ブルネイ・ダルサラーム、JAIF

目的：

- ・東アジア地域および世界の持続可能な社会づくりに貢献するユースの人材育成を行う
- ・ユースの地球規模課題に対する理解を促進し、問題解決に向けた活動への参加と協力を促す
- ・将来の協力体制を築くユースたちの相互理解と関係構築を促す

プログラム概略：

- ・環境問題、環境活動の事例共有と意見交換
- ・共同体制、ネットワークの構築
- ・ASEAN+3ユース活動の立ち上げ
- ・フィールドトリップ（現場体験ツアー）

2. プログラム

22 日 (木)	
08.30 – 11.00	開会式
	07.30 – 08.30: 受付
	08.30 – 08.50: 来賓到着
	08.50 – 09.00: 大臣到着
	09.00 – 10.00: イスラム祈祷 来賓スピーチ <ul style="list-style-type: none"> ○ Haji Mohd Zakaria Haji Sarudin 開催委員長歓迎挨拶 ○ 広瀬哲樹特命全権大使スピーチ ○ Dato' Misran Karmain ASEAN 事務局次長スピーチ ○ Pehin Orang Kaya Hamzah Pahlawan Dato Seri Setia Awang Hj. Abdullah bin Begawan Mudim Dato Paduka Haji Bakar ブルネイ開発大臣スピーチおよび開会宣言
	10.00 – 10.30: ブルネイユースによるパフォーマンス
	10.30 – 11.00: 軽食
	11.00 – 11.15: 記念撮影
11.15 – 12.00	オリエンテーション/アイスブレイキング
12.00 – 13.30	昼食
13.30 – 14.00	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 基調講演「ASEAN 諸国における持続可能な開発」 ASEAN 事務局 Dr. Raman Letchumanan
14.00 – 14.30	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 基調講演「気候変動と ASEAN 地域の脆弱性」 国際開発研究センター (IDRC) Ms. Herminia A. Francisco
14.30 – 15.00	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 基調講演「持続可能な開発のための教育：高等教育機関と地域センターの役割」 国連大学、アジア工科大学 Prof. Mario Tabucanon,
15.00 – 15.30	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 基調講演「環境・気候変動とユース」 Mr. Kenneth Wong
15.30 – 15.45	軽食、ティータイム
15.45 – 17.00	講演者によるパネルディスカッション
17.00 – 17.30	翌日からのディスカッション等の説明、連絡
19.30	開発大臣主催ウェルカムディナー
23 日 (金)	
08.00 – 08.30	1 日目の振り返り
08.30 – 10.40	各国ユース発表 (15 分) + Q&A (5 分) - ブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア

10.30 – 10.45	軽食、ティータイム
10.45 – 11.50	各国ユース発表 (15 分) + Q&A (5 分) - ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム
11.50 – 14.00	昼食
14.00 – 15.00	各国ユース発表 (15 分) + Q&A (5 分) - 中国、日本、韓国
15.00 – 15.15	軽食、ティータイム
15.15-17.00	グループディスカッション ('ASEAN Plus Three Youth Program') 参加者を5つのグループに分け (各グループにブルネイ以外は各国1人)、グループごとに各国のプレゼンテーションをうけて、会議後に実施することを目指すアクションプランの企画立案を行う。
19.30	開発省主催ディナー
24 日 (土)	
08.30-09.00	2 日目の振り返り
09.00 – 10.30	グループディスカッション 2 ('ASEAN Plus Three Youth Power of 10') 企画案具体化および発表準備とともに、10 のキャッチコピーを作成する。
10.30 – 10.45	軽食、ティータイム
10.45 – 12.00	気候変動交渉のシミュレーション
12.00 – 13.30	昼食
13.30 – 15.30	グループディスカッション発表
15.30 – 16.00	軽食、ティータイム
16.00 – 17.00	最終ディスカッション ディスカッションのまとめ、今後の連携
19.30	開発省主催ディナー
25 日 (日)	
08.30 – 12.00	ASEAN+ 3 ユース環境アクションステートメント合意
12.00 – 13.30	昼食
13.30 – 17.00	フィールドトリップ (ブルネイ王立博物館、水上住居見学)
19.00-22.30	閉会式 19.00 – 19.25: 来賓到着 19.25 – 19.30: 大臣到着 19.30 – 20.00: 本フォーラムの所感、ステイトメント発表、参加者挨拶 20.00 – 20.30: 大臣による修了証明書授与 20.30 – 22.30: ディナーおよび参加者による各国文化ショー

3. 内容報告

1 日目

■ オープニング

ブルネイ開発省大臣や日本大使をはじめとした VIP の挨拶やブルネイの若者によるパフォーマンスなどで華々しくこの会議の開会が行われた。



■ アイスブレイキング

参加者同士の自己紹介を兼ねたアイスブレイキング。参加者を 5 グループにわけ、グループ内で各自の背中に紙をはり、お互いの印象を書きあう。最後に、自分がどのようなことを書かれたかについて、20 人程度がステージ上で発表。日本人参加者からは、3 人が積極的にステージにあがった。



■ 基調講演・パネルディスカッション

- 基調講演 「ASEAN 諸国における持続可能な開発」

Dr Raman Letchumanan, ASEAN Secretariat

ASEAN の環境レポートをもとに、ASEAN の概況紹介。および COP15 をはじめとした気候変動交渉についての紹介（後ほどシュミレーションゲームを実施）

- 基調講演 「気候変動と ASEAN 地域の脆弱性」

Ms. Herminia A. Francisco, International Research Development Centre (IDRC)

気候変動に対する東南アジア地域のぜい弱性についての事例等を紹介。

- Q&A

私たちはどのように貢献していけるのかという日本人参加者の質問にたいして、日本人ができることはもっとファンドをだすことだ。この地域は困っているのだと回答した。

- 基調講演 「持続可能な開発のための教育：高等教育機関と地域センターの役割」

Prof. Mario Tabucanon, UNU-IAS, AIT

国連大学、DESD、ProSPER.Net の紹介、RCE として地域での環境教育例紹介と ESD



の重要性を示し、大学での修士課程など参加者が今後参加可能な ESD に関わる特徴的プログラムを紹介。

□ 基調講演 「環境・気候変動とユース」

Mr. Kenneth Wong”

多くの図や写真、映像などを用い、気候変動、エコシステムへの影響を紹介。COP15の様子からユースができることとして複数の活動を紹介し、ユースの役割などを示した。

パネルディスカッション

参加者からのオープンクエッションに対し、プレゼンターが答える形式で進んだ。

ASEAN+3 だけにとらわれない国際協定の在り方、ユースの可能性などについて意見が交わされた。



2 日目

■各国ユースからの発表

ASEAN10 カ国と日中韓 3 カ国それぞれの参加者が、自らの国の環境問題、状況や自分達が環境に関して取り組んできた事例、そして今後に向けたアイデアを各国 20 分の持ち時間を用い全体に紹介・共有した。日本の参加者も、自分達の経験をもとに里山、大学や社会で実施した取り組み、グリーンカーテンや環境配慮型商品などの紹介と未来のアジアにおける若者のネットワークについてのアイデアを共有した。質疑応答では、残念ながら発表内容と全く関係ない捕鯨問題についてどのように考えているのかという質問がで、調査として行っているという回答を参加者が行っていた。

(各国の発表資料については別添のオリジナルファイル参照)



■グループ討論

5 グループに分かれ、グループごとに前プログラムである各国ユースからの発表を参考に、自分達が実施できる活動の企画作り、一般のユース、市民の意識啓発を行うためのキャッチコピーづくりなどに取り組んだ。日本の活動は ASEAN 諸国の人々にとって、興味深いものであったようでどのグループでも何かしらの活動が参考にされたり、各グループで全体発表以上の追加の説明を求められたりと、日本人参加者は中心的役割を果たしていた。以下、各グループ参加者からの報告を引用する。

グループ番号： 1 参加メンバー： 高尾育穂

提案した活動： Earth Day, Eco business, lunch box day , irohasu, eco freemarket, eco bycicle, など

提案した活動を選択した理由やディスカッションの進め方&日本の事例、もしくは自身の活動が貢献した点&自分の関わり、役割：

選択した理由は日本独特で、且つ他国でも簡単に取り入れられるもの。

第 2 言語で母国語のように話されているのは知っていたが、日本人に似通った顔のブルネイの高校生が活発的に意見をぽんぽん英語で発言していることに、啞然とした。

ASEANの学生も同様。お互いが知っている知識は違うので、私は難しい話でも、皆にわかりやすいように、実物を持ってきたり、わかりやすいよう説明すること、また、この恵まれた積極的環境にASEANの youth に負けじと積極的に発言した。



グループ番号：2 参加メンバー：建部祥世

提案した活動：GreenDay、Green Curtain、Planting trees with celebrities

提案した活動を選択した理由やディスカッションの進め方&日本の事例、もしくは自身の活動が貢献した点&自分の関わり、役割：

グループのリーダーはいたけれど、みんながそれぞれ意見を言い合える環境が日本と似ていてとても良かった。みんなの意見が反映されたおかげで、より良く、実行可能な活動計画を提案できたと思う。私の貢献できたところはヘチマカーテンという日本独特の文化を紹介し、みんなに興味を持ってもらえたこと。

グループ番号：3 参加メンバー：佐藤裕基

提案した活動：Environmentally-Friendly Event、Eco-Concert、Car-Free day*、Youth Symposium* (*：他者をサポートする形で提案)

提案した活動を選択した理由やディスカッションの進め方&日本の事例、もしくは自身の活動が貢献した点&自分の関わり、役割：

Environmentally-Friendly Event: 佐藤が代表を務めていた「はしっくす」では、2010年5月に道内の3拠点を連携してゴミ拾い活動と植樹を行うことを予定している。

Environmentally-Friendly Event で紹介されていた、植樹や野外活動については、この活動を紹介します。同時にこのイベントをnetwork-basedで行う可能性について示唆した。



Eco-Concert: 北海道では、Rising Sun Rock festivalで毎年、ゴミ拾い活動およびゴミの13分別を行っている (Ezorock 主宰)。これは元々のRock festivalに環境の側面を付け加えたものであるため、エコとコンサートを同時発生的に行うという点ではコンセプトが異

なるものの、内容的には、若者参加者への意識付け、清掃活動、および環境に対するパフォーマンスアートなどの提案事項は、RSR での Ezorock のゴミ拾い活動をもとに提案した。**Car-Free day***: Car-Free day というコンセプト自体は、古くから世界的に存在するものであるが、そこに（特に旭川をはじめとする地方都市で）存在する「車がないとどこへも行けない（公共交通機関の貧弱さ）」という問題を指摘し、公共交通機関の拡充が同時に行われる必要性を提言した。

Youth Symposium*: symposium というと、非常に堅苦しいイメージがあるが、より、workshop 的で双方向的なやり取りである必要性を指摘した。世界ユース水フォーラムのひとつの例として挙げ、symposium の成果を世代間にまたがって、publish できる可能性を指摘した。（なお、Group3 の発表の Presenter を務めた。）

グループ番号： 4 参加メンバー：上原翔吾

提案した活動： Save one cup of water for you and for me

提案した活動を選択した理由やディスカッションの進め方&日本の事例、もしくは自身の活動が貢献した点&自分の関わり、役割：

水問題は今後世界のもっとも重要な問題のひとつとなることが予想される。しかし、水を保全する技術に関して、国によってばらつきがあるのが現状である。そのため、安定して安全な水を手にすることが困難な人々が数多くいる。そこで私たちのグループの提案では、より多くの人々が安定して安全な水を手にすることができるように、水保全技術のコンテストを行うことを提案した。まず、対象は 15 歳から 20 歳、21 歳から 25 歳の二つの



カテゴリーに分けられ、さらに技術の適用範囲によって、地区レベル、国レベル、地域レベルの3つに分けられる。毎年それぞれの国でコンテストを行い地域レベルでのコンテストへと広がっていく。コンテストを通して技術革新を促し、メディアを通して情報を発信していく。

グループ内でのディスカッションは、特に数カ国の学生が率先してリーダーシップをとることで行われた。私自身は、あまり積極的に発言することはできなかった。しかし、他国の学生たちと協力しながら活動を提案しプレゼンテーションを行うことができた。

グループ番号：5 参加メンバー：立石かをり

提案した活動：environmental exchange program

提案した活動を選択した理由やディスカッションの進め方&日本の事例、もしくは自身の活動が貢献した点&自分の関わり、役割：

ディスカッションの進め方としては、
一人ずつアクションのアイデア出し・共有→
参加者・ファシリテーターがコメント→ファ
シリテーターが四つのアクションプランを
選択・グループ分け→それぞれのグループで
コンテンツを考える→byline を考える→発
表

といった形式でした。

自分の参加するグループに割り振られたの
はシンガポールの参加者が提案した
environmental exchange program で、内容

としては2週間から一ヶ月にわたる交換留学プログラムです。環境問題についての研修や意見・知識の共有、アクティビティなどを行うものです。ある程度の長さの期間にすることで単なる環境学習にとどまらずフィールドワークや実際のアクションを実行します。単なる研修にとどまっては意味も効果も薄いと考えられることから、アクションプランの作成と実行や得た知識と経験のデータベース化もプログラム内に含めることを提案しました。



3日目

■グループ討論（続き）

■気候変動シミュレーション

先進国、途上国、低開発国、ビジネス、市民の5グループに分かれ、各グループが気候変動問題をどのように捉えているのか、他のグループに何を求めているのかなどのお話を交わした。短い時間に単純化したワークショップではあったが、実際のコンフリクトをわかりやすく表していた。



■グループ発表

2日目から継続しているグループ討論の結果をグループごとに全体に発表した。活動内容についての質疑応答場面では、グリーンカーテンや弁当など日本人参加者が追加で日本独自の活動を説明する場面が目立った。



4日目

■グループ討論（ステイトメント）

特にグループごとでいれたい語句、削りたい語句の検討等を行い、全体で意見募集を行った上で、全体スクリーンに本文を映しながら細かい訂正も加え、上記の活動案等も加え、参加者が合意した宣言文としてとりまとめた（巻末参照）。



■将来にむけて

今後、参加者のネットワーク維持についての全体ディスカッションとなり、ASEAN事務局が立ち上げたサイトの紹介、参加者がイニシアティブをとりたちあげた Facebook 内のグループについて共有と、今後もこれらを活用していくことの合意がなされた。



■フィールドトリップ

ブルネイ王立博物館と水上住居の見学を行った。



ブルネイ王立博物館にて



水上住居が見える広場にて

■閉会式

ブルネイ開発省大臣や日本大使をはじめとしたVIPの挨拶に続き、各国参加者代表からステートメントの発表、日本をはじめ地域毎の参加者代表から挨拶（ブルネイ、ASEAN、日中韓から各1人）、参加者へのサティフィケーション授与等が行われ、引き続き、最後のディナーと文化交流での各国文化紹介が深夜まで行われた。日本は盆踊りをし、折り紙を紹介した。



ステートメントを読み上げる各国参加者代表



修了証明書授与



日中韓代表としての挨拶



大臣と参加者でフィナーレの合唱



日本からの文化交流として盆踊りの披露

4. 参加者からの声

◆ 上原翔吾

京都大学大学院農学研究科 森林科学専攻修士課程 1年

・会議満足度

(bad) 1 2 3 ④ 5(good)

・自分自身の貢献度

(bad) 1 ② 3 4 5(good)

・日本における会議への支援態勢

(bad) 1 2 ③ 4 5(good)

・この会議に参加してよかったこと

第一に、他国の学生たちと交流することができたことである。ASEAN は日本にとってよきパートナーであるが、なかなか個人で訪れる機会の少ない国も多い。私はフォーラム期間中、ミャンマーの学生と一緒にルームシェアをした。私にとってミャンマーとは、ニュースで時々現状を知るような国にしか過ぎなかった。しかし、私の大学での専攻と彼の専攻が同じだということもあり、いろいろな話をすることができた。ほかのミャンマーからの参加者たちも私に暖かく接してくれ、ミャンマーという国が私にとって少し身近になったように感じた。

第二に、それぞれの参加者が各国の環境問題の現状を知ることができたことである。私は、ASEAN 諸国の熱帯森林が危機に瀕している現状を知った。一方で、日本の里山における森林の荒廃がアンダーユースによって生じていることを伝えることができた。それによって、それぞれの発展途上国と先進国の環境問題の本質の違いを認識することができた。

・この会議であなたが得たものや、新たな情報・知識など

会議に参加することで、ASEAN の学生たちが日本に対して好印象を抱いていることが驚きだった。ブルネイやマレーシアの学生は日本語を学校で勉強しておりお互いの基本的な知識を共有しているため、コミュニケーションがやりやすかった。これも、これまで日本と ASEAN との間でよい関係が構築されてきたためだと思う。これからもそのような関係が維持されるよう、ASEAN との交流が継続して行われるべきだと感じた。一方で、私自身の ASEAN に関して知識の乏しさも感じた。宗教や風習など初めて体験することもたくさんあり、私はもっと ASEAN 諸国の文化について勉強していく必要があると感じた。

・今後どのようにこの経験、ネットワークを活かしていくのか

私は8月に愛知で開催される COP10 ユース会議に参加することが決定している。ブルネイでのフォーラムは私にとって初めての国際会議であり、会議に積極的に関わることができなかった部分もあった。COP10 ユース会議では、ブルネイでのフォーラムでできなかったことを積極的に行っていきたいと考えている。また、ブルネイでのフォーラムで得たネットワークは、COP10 ユース会議においても役立つものと考えている。今後さらに大きなネットワーク作りを行っていきたい。

・この会議、もしくは日本での準備段階で改良すべき点、いまいちだと感じた点

日本から5人の学生が参加したが、お互いのコミュニケーションが難しい部分があったと思われる。日本の環境問題の現状やユースによる環境保全活動について、プレゼンテーションを作成した。しかし、ネット上での情報交換が多く、また提出期限までの時間が短いこともあり、お互いの表現したいことを十分に理解しプレゼンを完璧に行うことは難しかった。より優れたプレゼンを行うためには、もっと早い段階からプレゼンの作成に取り組み各自の意見を集約する必要があるだろう。

・今後、実際に活動を行う上で、また、同様の会議に他のユースが参加する支援のために→日本政府、環境省に望むこと、コメント

第一に、ユースの活動のネットワーク作りを支援していただきたいと考えている。日本の学生はそれぞれの地域で環境保全に向けた活動を行っている。ただ、自分自身がかかわっていない他地域の活動を知る機会は少ないように感じる。ブルネイでのフォーラムには、日本から5人の学生が参加した。私以外の4人の参加者がそれぞれ私の知らないような活動を行っていることに、私は大いに刺激を受けた。逆に言えば、このフォーラムが無ければそのような活動を知る機会は無かったかもしれない。日本国内におけるユースの環境保全活動のネットワーク作りを促していくことは、それぞれの学生の活動に良い刺激を与えるのではないだろうか、

第二に、ユースの活動に対して、より社会的な関心が得られるような機会を与えていただきたいと考えている。ブルネイでのフォーラムは社会的な関心も高く、日本からの参加者について地元紙に記事が掲載されるほどであった。一方、日本ではこのようなユース会議について、あまり社会的な関心が高くないように感じる。今年8月に開催される COP10 は、日本で開催されるにもかかわらず知名度が非常に低い。COP10 ユース会議がより有意義なものになるよう、社会的な関心を高める環境づくりを行っていただければと思う。

→エコ・リーグに望むこと、コメント

私は今回エコ・リーグのホームページを参照していて、たまたまこの会議のことを知り応募することを決めた。このような機会を提供していただき、またこの会議への参加を支

援していただいたことを、私は非常にありがたいことだと感じている。この会議に参加することで、はじめてエコ・リーグの存在や活動内容を知ることができた。今後、日本国内・国外でのユースのネットワークがさらに広がっていくことを期待したいと思う。

・その他（何かあれば）

今回の会議に参加するにあたり、さまざまな人に支えていただきました。そのおかげで他国の学生との交流など非常に貴重な体験をすることができました。すべての方に感謝の気持ちを表したいと思います。この会議での経験を、就職など将来いろいろな場面で活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

◆ 佐藤裕基

旭川医科大学 医学部 医学科 5年

・会議満足度

(bad) 1 2 3 ④ 5(good)

・自分自身の貢献度

(bad) 1 2 3 ④ 5(good)

・日本における会議への支援態勢

(bad) 1 2 3 ④ 5(good)

・この会議に参加してよかったこと

まず、ASEAN 諸国の気候変動に関する考え方を学ぶ良いきっかけになったと思う。気候変動に関して、ASEAN 諸国では、日本よりもさらにクリティカルな問題として捉えられており、それゆえ優先度の高い問題として考えられているように感じた。

若者のネットワークに関して、日本でもいくつかの動きがあるが、それが ASEAN+3 各国内でも行われており、それが今回のフォーラムで有機的につながろうという目標で合意できたことは、大きな収穫であったと考えられる。ネットワークについては、これまで ASEAN+3 諸国で他に事例を聞き及んで無かったが、今回の会議で、他国でも国内ネットワークが形成されつつある事は、今後の ASEAN+3 諸国の若者のネットワークを国同士で行う上で重要であり、日本国内でも積極的にネットワークの構築を推し進める必要があると考えられた。

- ・この会議であなたが得たものや、新たな情報・知識など

私はこれまで、主に水環境の視点からの取り組みを行ってきた。今回の会議において、気候変動を考えると、水環境は、大きな factor であると同時に、気候変動を構成する一つの要素でしかない事も感じた。気候変動、さらにその背景として存在する環境負荷と環境破壊の問題については、水環境の枠だけにとらわれることなく、その他の factor（森林や土壌環境など）についても同じように検討する必要性を感じた。

10-activities と 10-bylines の発表では、ASEAN+3 諸国の若者が合意したという点で極めて大きな意義を持つと思う。これは、参加者である若者がそれぞれの国や地域に帰って活動を行うときに、大きな原動力となると思う。この中でも、水に関するキーワードが提示されたことは、個人的には大変意義深いと感じた。

他国の教育事例を聞く限りでは、日本の教育事例や学校での環境に関わる授業をユースが行うことは、日本が今後積極的にリードできる分野であると感じている。その点では、今後教育分野との連携もまた重要であると考えている。他の ASEAN+3 諸国でもユースが別の世代にむけて、環境への意識付けを提起している例が存在することは、今後の活動を行う上で、network-based の情報共有の可能性を感じさせるものである。

- ・今後どのようにこの経験、ネットワークを活かしていくのか

旭川市で、学生向けと市民向けの両方で、報告会を行うことを現在検討中である。所属団体の後輩にあたる人間が、環境を「地域」と「世界」の両方の視点から考えることのできるきっかけとして、この報告会を提供できればと考えている。旭川市のような中規模以下の都市では、(学生を含めた)市民は、どちらかといえば地域的な視点に偏りがちであり、気候変動は、自らの生活と結びつく問題ではないと考えていることも多く、これを打破するために、今回の会議での経験を生かすことができると考えている。

同時に、学生世代における、ファシリテーション能力や、会議運営方法、さらにディベートの方法についても、今回の会議での経験をもとに、学生同士で peer-teaching を行うことができると考えている。

- ・この会議、もしくは日本での準備段階で改良すべき点、いまいちだと感じた点

会議初日の Lecture は、どれほどの意義があったのか再検討する必要があるとおもう。情報を提示するだけであれば、参加者に資料を提供して会議までに熟読することとし、その空いた時間をディスカッションに充てる方が、より効果的であったと思う。

また、この会議では、ファシリテーターが必ずしもファシリテーションに習熟していないと感じさせる場面があり、これについては今後の改善点として挙げられるだろうと思う。一般にディスカッションで 6-7 人程度のグループが限度であり、それを超えると会議に参加しない者がでてくるといわれている。5 グループのディスカッション (約 20 名/グループ) において、参加者全員の意見が果たしてきちんと組み上げられていたかどうかは検証を要

すると思う。またグループも、単に小グループとして分けるだけではなく、それぞれのグループに、より具体的なテーマ（例えば、水環境、森林、土壌汚染、大気汚染など）を与えて、それぞれのアクティビティや **by-lines** を考えさせる方が効果的であるとも考えることができる。しかしながら、個々の会議運営担当者たちは、多くの仕事をこなされたものと思われ、個性的なユースの会合にあたって、ひとつの方向へと会議をまとめられたことには、彼らの多大なる貢献があったことに感謝申し上げたい。

・今後、実際に活動を行う上で、また、同様の会議に他のユースが参加する支援のために→日本政府、環境省に望むこと、コメント

日本の経済的援助は ASEAN+3 諸国にとって重要な意味を持ち、また意義深いものであると思う。実際参加者の中には、日本の援助無しにはこられなかったという趣旨の発言を非公式であれに話している者もいた。

一方で、JAIF をはじめとする日本の支援体制について熟知せずに支援を受けている者もいることもまた事実である。これは、現地における事務局サイドに日本人が不在であったことによることも原因として考えられる。今後は、日本は経済的援助と並行して人的資材の提供も必要になると考えている。

日本には非常に秀でたファシリテーターが、環境の分野で数多く存在するし、同じく事務局の処理能力に優れた人材も非常に多い。これらのファシリテーターあるいは、事務局スタッフを、積極的に会議へ送り込むことが、今後、日本の環境分野の会議におけるイニシアティブを左右すると考える。

→エコ・リーグに望むこと、コメント

本フォーラム参加における、事務関係の処理を一手に引き受けていただいたこと、また、事前勉強会などのコーディネートに大変感謝しております。ありがとうございました。

事前勉強会の日程をすこし早めにできれば、その後参加者同士での交流がもっと積極的、かつより深くできたのではないかと考えております。

◆ 立石 かをり

上智大学 法学部 地球環境法学科 3年

・会議満足度

(bad) 1 2 3 ④ 5(good)

・自分自身の貢献度

(bad) 1 ② 3 4 5(good)
20

・日本における会議への支援態勢

(bad) 1 2 3 ④ 5(good)

・この会議に参加してよかったこと

月並みですが、まずは他のアジアのユースと交流できたことです。この会議に参加するまでは他のアジア諸国の人々と接する機会が無かったため、勝手な先入観やよく知らない世界の人々への不安などがありました。しかし、実際会議を通じて話しあったり、互いの国のことを教えあったりしているうちにそのような感情は消えました。むしろ、他のアジアの国々に対し親近感や好奇心が芽生えました。

さらに、国別のプレゼンテーションや個別の話し合いを通じて他のアジアの国々の自然資源や環境問題の現状、ユースの活動などを知ることで視野が広がり、環境問題における日本と他の国々との関わりについて深く考えさせられるきっかけとなりました。

・この会議であなたが得たものや、新たな情報・知識など

知識・情報

- 会議のコンテンツから ASEAN+3 の国々の環境問題、ユースの環境活動、文化
- 様々な環境ネットワークの存在
- 個別の交流を通じて各国の文化、言語、習慣、宗教、政治についての知識

その他

- アジアユースとのネットワーク
- 様々な国の人々とディスカッションする上での技術や心構え
- 日本としてアジア地域に対しなすべき役割を自覚
- 今後環境活動していくうえでのモチベーション

・今後どのようにこの経験、ネットワークを活かしていくのか

まずはステイトメントにもあるように、facebook 等の SNS を活用して他の参加者との関係を維持発展していきたいと思います。また、この会議で得た知識・経験を日本の環境活動に関わるユースたちに伝えたいと思います。

反省としてはあまり公の場で積極的に発言することが出来なかったもので、上記 SNS や個人のネットワークを通じて知識や経験を発信したいと思います。

この会議で得た経験を現在スタッフとなっている名古屋でのユース国際会議にも生かしたいと思います。

・この会議、もしくは日本での準備段階で改良すべき点、いまいちだと感じた点

時間的な問題と会議のコンテンツの問題だと思いますが、環境問題について深く議論をする場がなかったことです。参加者の中には特定の環境問題の分野について深い知識や意見

を持っている人もいたようなのでもっとそれらを共有出来る場があれば良いと思いました。具体的には、水や気候変動など分野別にグループわけをして各人が興味のあるものに入り、ディスカッションをする、というのが良いと思います。

また **Sustainable development** と **climate change** が今回の会議の主要なテーマと聞いていましたが、あまりそれらについての知識を得る場や話し合う時間がなかったのが残念でした。

→日本政府、環境省に望むこと、コメント

日本の役割は環境技術の移転や資金援助であると内外で言われることが多いですが、私はそれだけでは十分でないと思います。アジアの国々は現在経済発展が著しく、環境保護よりも経済成長に重点をおく傾向があると思いますし、それによって実際に大気・水汚染や廃棄物問題などが起きています。日本はいち早く高度経済成長を経験した国として経済重視によって起こる環境破壊などの弊害や自然資源の重要性を伝えるべきだと感じました。また今回の会議の講師によるレクチャーでは環境問題の実態やユースのネットワークの存在についての話が多かったですが、次世代に伝えるべきもっとも重要なことは、**sustainable development** を実現するための新しい価値観やライフスタイルの実現と普及だと思っています。日本が元来持っていた「もったいない」の精神や自然と共生する生き方を伝えるほか、物質的な豊かさが必ずしも幸せにつながらないという日本の現状を伝える機会があればよいと思います。

またこのほか今回の会議で強く感じたことは、他の国のユースは程度に違いはありますが総じてプレゼンやディスカッション能力が日本人よりも高いです。人を巻き込み引き付けるプレゼンや即興で自分の意見を論理的かつ明確に主張する技量を身につけるにはある程度練習が必要だと思っています。このような会議で日本の存在感を発揮するには、今後このような練習を教育に積極的に組み入れる必要があると感じました。もちろん自分自身でも英語力を含めこのような技術を高めていきたいと思っています。

環境省の皆様、JAIFのおかげでこのような会議に参加することが出来、大変感謝しています。ありがとうございました。

→エコ・リーグに望むこと、コメント

環境分野ですばらしい活躍をしているユースは他にたくさんいるのに、このような会議の存在を知らなかったり、英語ができないため参加できなかつたりするのはもったいないと思いました。私自身この会議に参加できて視野やネットワークが広がったので、そのような人が参加できるように是非プロモーションや英語のトレーニングを今後もよろしく願います。

大変お世話になった引率のえりさん、福島さんほかエコ・リーグの皆様ありがとうございました。

◆ 高尾 育穂

横浜市立大学 国際総合科学部 国際経営コース 2年

・会議満足度

(bad) 1 2 3 4 ⑤(good)

・自分自身の貢献度

(bad) 1 2 ③ 4 5(good)

・日本における会議への支援態勢

(bad) 1 2 3 4 5(good) ←お金の面しか見えなかったですが、もちろん事前研修は素晴らしかったですが、それ以外に特に支援はあったのでしょうか？

・この会議に参加してよかったこと

A S E A N+3 の各国に同じ問題意識のある youth と繋がれ、有意義なディスカッションが行えたこと。世界青年の船という、似たような状況に置かれたことがあったが、アジアで行うことが、身近な分、刺激を受けた。英語でディスカッションするなど自分に自身がついた。

・この会議であなたが得たものや、新たな情報・知識など

A S E A N+3 の同じ問題意識を持った youth との繋がり。私はこれで、世界とアジアに環境を考える Y o u t h とつながりが出来、現在、環境問題が騒がれる中だが、これだけ若い学生たちが、環境に向けて懸命に学び会っている場があることが、今後の未来を明るくさせると思った。

・今後どのようにこの経験、ネットワークを活かしていくのか

ワークの大事さ、ディスカッションでのファシリタの大切さが身にしみたので、自分でその2点を今後勉強すると共に、エコビジネスといった私の研究テーマで新たなことや何かしら、アクションを起こした時、気軽に twitter など、情報を分かち合い、お互いこれからも切磋琢磨していく仲間になりたい。

・この会議、もしくは日本での準備段階で改良すべき点、いまいちだと感じた点

A S E A N+3 のユースたちがどんな環境活動に取り組んでいるのかをもっと詳しく知りたかったです。各国 15 分で自分たちの活動を発表するだけではもの足りなかった。またもっとグループで活動を提案するための時間が欲しかった。短時間だったので提案するだけで終わってしまい、今後本当に実行していこう！という雰囲気にはなれなかった。ただの

「提案」というような感じ。もっと時間があって内容が煮詰まれば、実際に行動に移そう！
という気持ちまでに至ったかもしれない。

- ・今後、実際に活動を行う上で、また、同様の会議に他のユースが参加する支援のために
→日本政府、環境省に望むこと、コメント
資金協力をしていることをもっとアピールしていくべきだと思う。てっきり、ブルネイが
全額出しているものと思われていた。
→エコ・リーグに望むこと、コメント
特にありません。行かせていただいて、ありがとうございました！

◆ 建部 祥世

筑波大学 日本語・日本文化学類 1年

- ・会議満足度

(bad) 1 2 3 4 ⑤(good)

- ・自分自身の貢献度

(bad) 1 2 ③ 4 5(good)

- ・日本における会議への支援態勢

(bad) 1 2 3 4 5(good) ←ちょっと意味が分かりません。

- ・この会議に参加してよかったこと

まずは自分自身に自信がついた。これからの様々な活動に向けてもっとポジティブにアクティブになろうと思った。モチベーションが上がった。そしてこれから自分が何をしていくべきなのかが見えてきた。

- ・この会議であなたが得たものや、新たな情報・知識など

ASEANのユースたちとのネットワーク。これから環境活動をやっていく上で、ASEANの同世代たちとのネットワークは非常に大切なものになってくると思う。もっともっとグローバルに自分の活動を広げ、そしてユースたちとコラボレーションしていけたら良いと思っている。

- ・今後どのようにこの経験、ネットワークを活かしていくのか

まだ良く分からないが、とにかく積極的に活動に取り組んだりしていきたい。

・この会議、もしくは日本での準備段階で改良すべき点、いまいちだと感じた点
ASEAN+3 のユースたちがどんな環境活動に取り組んでいるのかをもっと詳しく知りたかったです。各国 15 分で自分たちの活動を発表するだけではもの足りなかった。またもっとグループで活動を提案するための時間が欲しかった。短時間だったので提案するだけで終わってしまい、今後本当に実行していこう！という雰囲気にはなれなかった。ただの「提案」というような感じ。もっと時間があって内容が煮詰まれば、実際に行動に移そう！という気持ちまでに至ったかもしれない。

・今後、実際に活動を行う上で、また、同様の会議に他のユースが参加する支援のために
→日本政府、環境省に望むこと、コメント
資金協力をしていることをもっとアピールしていくべきだと思う。
→エコ・リーグに望むこと、コメント
特にありません。行かせていただいて、ありがとうございました！

アジアの若者と連携

旭医大・佐藤裕基さん
環境フォーラム参加へ

【旭川】旭川医大5年の佐藤裕基さん(22)が、21日から東南アジアのフルネイで開催される「ASEAN+3ユース環境フォーラム」に、日本代表として道内でただ1人参加する。各国の若者が環境問題への理解を深め、協力し合う場で、佐藤さんは「いろいろな国の人と議論するのが楽しみ」と話している。

同フォーラムはブルネイ政府が主催し、東南アジア諸国連合(ASEAN)の加盟国(インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ラオス、ミャンマー、ベトナム)と、ASEAN+3(中国、韓国、日本)の若者から15〜25歳の1200人が参加する。各国代表の意見発表、グループ討論などを行う。日本代表は佐藤さんら5人。

佐藤さんは札幌旭丘高在学中に環境問題に興味を持ち、2006年と09年にそれぞれメキシコ、トルコでの「世界水フォーラム」に参加。09年には旭川でも



佐藤裕基さん

学生自主組織の代表として、世界の水問題を考えるワークショップを開いた。

今回の環境フォーラムでは、世界的な視点での活動と地域に根ざした活動に同時に取り組む意義や、組織の世代間で経験や人脈をどう引き継ぐかなどについて、体験を基に発表する。

佐藤さんは「結果を出すまで10年、20年とかかるのが環境問題。各国の若者と連携し、今後、日本や自分に何

↑ 渡航前:北海道新聞に掲載(平成 22 年 4 月 16 日夕刊:全道版)

→ 渡航後(報告会):北海道新聞に掲載(平成 22 年 5 月 26 日朝刊:上川版)

アジアの視点で環境考えよう

ASEANフォーラムに参加
旭医大生が来月報告会

【旭川】旭川医大5年の佐藤裕基さん(22)が6月に「世界に羽ばたく若者の力」グローバルの視点から環境問題を考える」と

ASEAN+3ユース環境フォーラム」に参加した旭医大5年の佐藤裕基さん(22)が6月に「世界に羽ばたく若者の力」グローバルの視点から環境問題を考える」と



佐藤裕基さん

題して報告を行う。

フォーラムは4月、ブルネイ政府が主催し、東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国と日本、中国、韓国から25歳以下の1200人が参加して開かれた。佐藤さんは日本代表として、意見発表やグループ討論などを行った。アジアの環境問題や他国の若者の取り組みに

ついて学んだといい「日本を取り組むべき問題など、多くの人に考えてもらいたい」と呼び掛けている。

報告会は6日に学生、20日は一般が対象で、両日とも午後1時から旭川市4の8、買物公園HIROBAで開かれる。

問い合わせはHIROBA 0166・26・0338へ。

(田辺恵)



The Minister of Development launches the Asean +3 Youth Forum

JEFFREY WONG

Asean+3 youths join hands to 'create climate for change'



Participants of the Asean +3 Youth Environment and the Minister of Development in a group photo

By James Kon

SOME 140 youths from Asean Countries including Brunei, China, Japan and the Republic of Korea will be sharing ideas and exchanging information on environmental issues to draft an Asean Strategic Plan of Action on the environment.

Brunei Darussalam through the Department of Environment, Parks and Recreation, Ministry of Development is currently hosting the four-day Asean +3 Youth Environment Forum at the Empire Hotel and country Club in conjunction with the Earth Day celebrations.

The Forum is co-financed by the Government of Japan through the Japan-Asen Integration Fund with support from the Ministry of Education and Asean Secretariat. The aim of the forum is to promote and enhance the participation and cooperation of Asean and other youths in the region in the field of long term environmental care, protection and management.

Among the issues discussed during the forum were mechanisms on enhancing Asean youth cooperation on the environment, developing an agenda and programme as well as mobilising youth engagement in environment issues whilst developing a document mandate from all delegates encompassing a plan of action.

The theme for this forum is "Creating a Climate for Change" which is to inculcate a sense of ownership for the environment amongst the young population of Asean Plus three other countries and puts an emphasis on the fact that their well being as well as that of the environment lies in their hands.

The youth forum participants will follow a packed programme of discussion and debate, with opportunities to interact and develop relationships with various environmental representatives. As a culmination to the event, participants draft an Asean Strategic Plan of Action on the environment conveying the global vision in addressing the opportunities and challenges for regional youth cooperation.

Highlights of the forum will include presentations and lectures on some of the effective programmes that have been conducted regionally. It is hoped that new ideas will be learned by youths in becoming leaders to promote and encourage their peers to take ownership of their



The Minister of Development (3rd Right) with other senior officials at the opening of ASEAN +3 Youth Environment Forum

environment and lead more environmentally sustainable lifestyles.

Pehin Orang Kaya Hamzah Pahlawan Dato Seri Setia Hj Abdullah bin Begawan Mudim Dato Paduka Hj Bakar, Minister of Development, was on hand to officiate the opening ceremony.

Also in attendance were Dato Paduka Dr Hj Mat Sunny Hj Md Hussein, Deputy Minister of Development, Dato Misran Karmain, Deputy Secretary General of Asean as well as other officers from the Ministry of Development.

The Japanese Ambassador, Hirose Noriki (left pic), in his remarks said, "In October last year, the Asean +3 ministerial meeting on environment came up with an idea of expanding the cooperation in environmental education in the two regions.

"Last November, youths who participated in the first Japan, China and Korea Youth Summit held in Nagoya, Japan had a chance to meet the Asean officials in charge of environmental education which led to the realisation of the Forum today with 13 countries that handle the promotion of the youths' environmental cooperation.

"The Japanese government has decided to positively support the idea of the forum and provided a financial backup by the Japan Asean Integration Fund. We believe that supporting these actions will lead to the support of Asean integration itself. Furthermore, in the long run, we hope that these efforts will lead to the creation of the East Asian community that includes the Asean +3 Countries."



写真は上から、
—ブルネイ開発大臣の開会宣言、
—参加者とVIPを交えての集合写真、
—オープニングに列席するVIP、
—在ブルネイ日本大使の挨拶、
—ブルネイの子供たちによるオープニングパフォーマンス



Lively modern dance performances during the opening ceremony

PHOTOS: JAMES KON

A lifestyle friendly to environs is crucial

By Farah Ahmadnawi

THE current generation is not living a lifestyle friendly to environmental sustainability and it must not be seen as a burden but instead should secure a new mindset for climate change.

This observation was made by Dr Raman Letchumanan of the Asean Secretariat during Asean+3 Youth Environment Forum held at the Indera Kayangan Ballroom at the Empire Hotel and Country Club.

The forum kicked off with presentations delivered by three invited speakers and will continue for three days until April 25 where in the next few days, over 100 youth participants from Asean countries will take part in presentations, discussions and an exercise conducted by Dr Raman prior to the closing ceremony on Sunday (April 25).

The first speaker was Dr Raman who spoke on 'Sustainable Development in Asean: Challenges and Opportunities'.

One of the topics discussed in his presentation was the Asean agreement on Transboundary Haze Pollution, which aimed to prevent, monitor and mitigate land, and forest fires to control the transboundary haze pollution through concerted national efforts, regional and international cooperation. A few measures included in the agreement are preparation, capacity building and public awareness, national and joint regional emergency response.

Forest fires and haze are the most serious environmental issues in this region where over 10 Asian countries have been affected, said Dr Letchumanan.

He said the impact of natural climate change is not only imposed on the environment but other factors as well such as disaster management, human development, health, economic growth, political and human security, to name a few. Thus, he implies that it is evident the impact of climate change multiplies and plays the domino effect leading to numerous other damages.

Another issue that was brought up during the presentation was the failure of the Bali Action Plan, introduced in the UN Climate Change 2007 conference where the agreement to obtain an environmental initiative designed to reach a secure climate future was not met.

The second presentation was entitled 'Climate Change and Vulnerabilities Assessment of SEA region to Climate Change' by Ms Herminia A Francisco, International Research Development Centre



Ms Herminia A Francisco from International Research Development Centre, one of the speakers during the Asean+3 Youth Environment Forum held at the Indera Kayangan ballroom at the Empire Hotel and Country Club yesterday

PHOTO: FARAH AHMADNAWI

(IRDC).

Meanwhile, in an interview with Dr Raman Letchumanan, he stated his opinion on the Heart of Borneo initiative. "The governments have agreed they should take collective agreement and organise an action plan. For now, we need to focus on finding more resources in terms of financial and so on. Thus, this is where we need to promote the initiatives to international donors." Ms Francisco stated that the two general actions that can be taken to tackle climate change are mitigation and adaptation.

Mitigation is by means of reducing the emission of greenhouse gases while adaptation refers to action taken by individuals or a system to take advantage of current and projected climate change and impact. Thus, adaptation plays a role in decreasing the vulnerability of a system and increases its resilience to impact.

She further stated that the three areas that contribute to the vulnerability of climate change are climatic hazards, sensitivity and adaptive capacity.

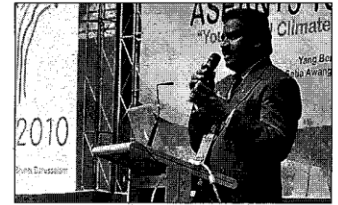
She revealed that a vast amount of support would be needed for adaptation to take place. According to the World Bank, an estimated USD10-40 billion is needed for new infrastructure alone. And taken from UNDP Human Development report, a total of USD86 billion per year is required for adaptation by 2015. "However, committed adaptation funds is limited and uncertain," said Ms Herminia.

The third speaker, Professor Mario Tabucanon from United Nations University-Institute of Advanced Studies, delivered a presentation on 'Education for sustainable development: roles of higher education institutions and regional centres of expertise' in which he gave a brief introduction on United Nations University.

The mission of the university is to address pressing global problems that are the concerns of UN, its people as well as member states. It promotes learning for policy making to meet the challenges of sustainable development.

Tabucanon highlighted higher education institutions can adopt a positive role in the education for sustainable development by reforming curricula, reorient research and integrate or mainstream sustainable development philosophy in their studies.

The event was concluded with a presentation by Mr Kenneth Wong who spoke on the role of youths as a big part to combat against climate change.



Dr Raman Letchumanan of the Asean Secretariat during his presentation at Empire Hotel CC yesterday

PHOTO: FARAH AHMADNAWI

Little steps like car-pooling count: Brunei

By James Kon

SOME 80 youths from Brunei Darussalam will gain an insight on climate change and preservation of the environment by participating in the ongoing Asean+3 Youth Environment Forum held in conjunction with Earth Day 2010 at the Empire Hotel and Country Club.

Among Brunei's youth in the forum are Dyg Nurul Azimah binti Hj Ishan Khalil and Awg Muhammad Farhan bin Azama, who will be presenting a project paper this morning. The students from Meragang Sixth Form Centre revealed their project is based on four sections, namely: carbon footprint, food security, conserving biodiversity and natural resources and reducing wastage.

"The research that we did came from the National Youth Forum a few weeks ago. The findings revealed wastage whereby every person produces 1.4 kg of wastage per day. It's very high especially when Brunei is a small country."

Nurul Azimah and Muhammad Farhan said, "We can do simple things like car-pooling since people stay close together or even walk instead of driving."

On recycling, Nurul said, "It's not done on a large scale and there are instances where people still mix by dumping different rubbish in the various recycle bins."

Both sixth formers said, "We can spread our awareness to our school's students and our home with little steps that can make a huge difference."

The forum is attended by some 140 participants comprising 60 youths from Asean countries along with Japan, China and South Korea and another 80 youths from Brunei. The theme chosen for the forum is "Creating a Climate Change".

Some Japanese youths showed their eagerness. Miss Sachiyo Tatebe of Tsukubu University, Miss Kaori Tateshi of Sphia University and Miss Ikuho Takao (Yokohama City) have three projects to share in the forum in relation to preserving the environment and climate change.

The Japanese trio will be talking about their project done in Japan on eco-challenges and free market action on climate change at universities and environmental education for high school students.

Said Miss Sachiyo, "I hope with my homemade 'Sensu' (paper fan), people will use less electricity. I will give people the opportunity to make a sensu. And written on the sensu are messages or drawings on preserving the environment."

Miss Ikuho, in her project, "will crush Coca-cola eco friendly bottles in front of the crowds to showcase the eco-friendly products available."

The Japanese participants also added, "We want to send the message that Japanese people are doing various activities and projects on environment. We want to share our knowledge and experience with the people in Asean."



Dyg Nurul Azimah binti Hj Ishan Khalil and Awang Muhammad Farhan bin Azama (3rd and 4th right) with other Brunei delegates and Singapore students

PHOTO: JAMES KON



Miss Sachiyo Tatebe of Tsukubu University, Miss Kaori Tateshi of Sphia University and Miss Ikuho Takao of Yokohama City with Japanese Ambassador Mr Hirose Noriki

写真は上から、

—基調講演「ASEAN 事務局 Dr. Raman Letchumanan」

—基調講演「国際開発研究センター Ms. Herminia A. Francisco」

—ブルネイ参加者とシンガポール参加者

—日本人参加者と在ブルネイ日本大使

Youths pass 10 environmental resolutions

By Farah Ahmadnawi

IT WAS a tearful moment for over 140 participants of the Asean +3 Youth Environment Forum as the three-day event came to an end yesterday evening.

The closing ceremony took place at the Empire Hotel and Country Club.

In attendance were Minister of Development, Pehin Orang Kaya Hamzah Pahlawan Dato Seri Setia Awang Haji Abdullah bin Begawan Mudim Dato Paduka Awang Haji Bakar, Deputy Minister of Development, Dato Paduka Dr Haji Mat Suny bin Haji Mohd Hussein, Permanent Secretary Haji Mohd Rozan bin Dato Paduka Haji Mohd Yunos and the Asean Secretariat's Dr Raman Letchumanan.

A total of 13 representatives from Asean countries participating in the forum presented their resolutions following discussions with Dr Raman Letchumanan and Martinah Haji Tamit earlier yesterday.

Wai Soe Zin shared the ten resolutions which aim to resolve environmental issues by organising activities in the respective countries.

The first on the resolution list is an environmental "Amazing Race", a cycling

contest to promote the use of bicycles as a mode of everyday transport and to appreciate nature.

The second resolution is an environmental exchange programme for youths from different countries to share knowledge and best practices.

The third resolution activity is the 'Green Curtain' where plants are grown on the base of windowsills or from the top of windows to reduce carbon emissions and help cool the room.

The fourth resolution proposes an Asean +3 Green Day where Asean +3 residents will wear green outfits and conduct green activities.

The next resolution is "Eco-Bags", a simple campaign to approach the public to use eco-bags instead of plastic bags.

The sixth resolution proposes eco-friendly competitions encouraging environment-related contests to be launched in schools to showcase the abilities, talents and creativity of students, as well as depict their responsibility in the protection and conservation of nature.

The next resolution is a Lunch Box Day where for one day people are encouraged not to use plastic ware for personal lunch boxes for meals.

Social networking is also taken into account where Facebook can be used as an effective means of communication to keep each country updated on environment-related activities.

The ninth resolution is the "No Motor" campaign encouraging the public to use public transport on a particular day in a week.

The last resolution is "Save one cup for you and for me", a water saving contest to nurture a sense to appreciate natural resources and encourage people to save water.

Meanwhile, Eryn Gayle de Leon, listed ten slogans the participants came up with to raise public awareness and environmental activism among the public. They are:

Green nature for the future; don't be an intruder; Be a green lover; Echo the eco; Plastic bags are so last year, reusable bags are here; Youths are the future generation; Let's work together to save the nation; STOP (Stop Today Or Pay); There is no PLANet B; The Earth doesn't live because of us, we live because of the Earth; One Earth, One Chance and WATER (We Are The Earth Rescuers).

The participants and attendees were entertained with cultural performances during the dinner.

The event also saw the presentation of certificates to representatives of the Asean countries by the Minister of Development.

During the three-day forum, the participants worked together in group discussions and presentations related to the issues of tackling environmental issues and sustainable development.



Minister of Development handing over a certificate to a representative from Japan



Representatives listen as the resolutions are read out

写真は閉会式にて。上から、
—ブルネイ大臣から修了証を受け取る日本人参加者
—ステイトメントを読み上げる各国参加者 (一番手前が日本人参加者)

1. 開催日

第1回:平成22年6月6日(日)13:00~15:30
 第2回:平成22年6月20日(日)*1 13:00~15:30

2. 開催場所

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム サテライトキャンパス「HI・RO・BA」
 (旭川市平和通り買物公園 旭川市4条8丁目)

参加人数

第1回: 12名(学生11名、市民1名(伊藤悟志氏:京都市ボランティア団体 FUROSHIKI、水都大阪2009「水辺の社会実験」大阪市長賞受賞))
 第2回: 5名(市民3名、旭川市議会議員1名(久保あつこ氏)、コンソーシアム関係者1名)

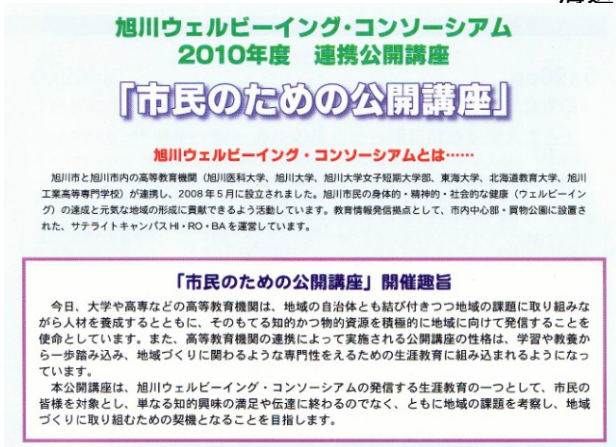
報道採録

図①: 渡航前:北海道新聞に掲載(平成22年4月16日夕刊:全道版)
 図②: 渡航後(報告会):北海道新聞に掲載(平成22年5月26日朝刊:上川版)
 図③-1、図③-2: 第2回報告会市民公開講座案内(抜粋:旭川ウェルビーイング・コンソーシアム)

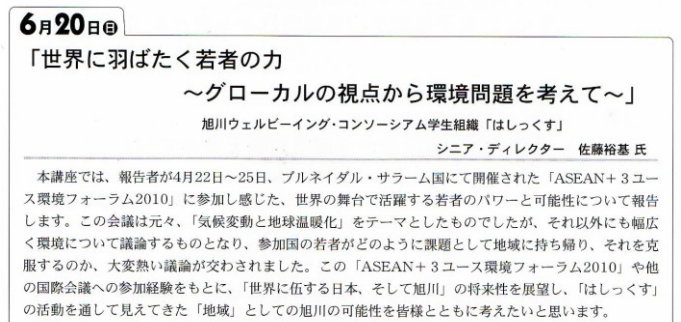


↑ 図①:平成22年4月16日北海道新聞夕刊(全道版)

↑ 図②:平成22年5月26日北海道朝刊(上川版)



↑ 図③-1:旭川ウェルビーイング・コンソーシアム市民公開講座概要



↑ 図③-2:旭川ウェルビーイング・コンソーシアム報告会開催案内

概要

第1回開催

第1回目の開催は、主に「学生向けの報告会」として、佐藤の所属する団体である「はしっくす」加盟校の旭川医科大学、北海道教育大学旭川校、旭川大学（女子短期大学部を含む）、東海大学旭川キャンパス、旭川工業高等専門学校との5校に参加者を募り、11名の学生が集合した（内訳は旭川医科大学から5名、旭川大学から3名、北海道教育大学旭川校から3名であった）。そこで、第1回目開催においては、より学生に親しみやすいように、同じ世代である他国の大学生がどのような活動を行っているか、あるいは、地域にどのように貢献しているかに重点をおいて会議報告を行った。



↑<第1回報告会の様子①>

報告では、現地で収集した他国のスライドを用いて、物的、人的資源の不足に悩まされながらも様々な環境分野で活動するASEAN+3各国の大学生・若者の姿を紹介した。

「はしっくす」は、主に地域との交流を主眼において活動している団体であり、環境問題が地域の問題でありながら、グローバルに通じる問題であること、そして科学的観点から論じる必要性がありながらも、そこに背景として存在する文化を忘れてはならないことを説明した。また、日本からの実際の発表スライドも紹介し、実際に今回の報告会に参加した大学生も参加したワークショップなどが、世界的な舞台でも発表に耐えうるものであることを説明し、地域活動と環境問題が緊密に絡み合いながら、次世代の地域を担う若者が最も必要とされている分野の一つであると紹介した。

また、発展的内容として、今回のフォーラムで論じられた「地球温暖化」とは、具体的にどのような問題が存在するのか、そしてASEAN諸国やアジア圏において、地球温暖化はどのような形で現れるのかを実際に参加者とディスカッションしながら論を進めた。特に、環境教育などのプログラムなど、日本が今後アドバンテージを生かせる分野を例として挙げることで、「環境問題」、「地球温暖化」というキーワード



↑<第1回報告会の様子②>

ードは決して抽象的な問題ではなく、具体的問題の集合体であることを認識する機会とした。

参加した大学生らは、地域活動が地域にとどまるだけでなく、それが他のエリア（国、地域）で良い手本となり、グローバルなプラットフォームに乗せることができる存在となりうることを、そして一見何気ない活動が、実は自身、そして環境の将来に資する（チャンスを広げてくれる）可能性があることを認識できたと考える。また、この回では、一般市民が1名参加した。彼自身もまた、環境活動を実際に行っており、様々な交流の糸口を見出した報告会であった。

第2回開催

第2回目は、「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム 市民公開講座」の中の第5回目の講座として開設した。これまでの「市民公開講座」では、実は学術関係者による専門領域の講座が多かった。その一方、若者がどのように活動しているのかを市民に対して説明する、訴えかける場として活用されることは少なく、「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」全体としても、学生が市民公開講座を開設するのは初の試みであった。



↑<第2回報告会の様子①>

この回では、AYEF2010が、「どのような会議であったか」という初歩的な導入部分に重点をおいて説明した。その中で、なぜ、ASEAN+3が集合する必要があるのか、そして日本がイニシアチブをとるべき分野であるのか、を解説し、スライドには、現地の基調講演で発表された4名のプレゼンターのスライド（一部）を用いた。また、現地での発表活動の紹介では、日本の若者によるネットワーク構築の必要性、教育とフィールド活動の結びつきなどを説明し、学校教育（総合的な学習の時間など）で環境教育が活用されうる可能性を示唆した。この回では、旭川市議会議員の久保あつこ氏が参加されており、若者のネットワークを基盤として、「環境に関連する各分野で日本をリードする存在である人々が、実は若者との結びつきを求めているのではないか」、あるいは「地域活動を地道に行なっている市民団体は、高齢化が進んでおり、若者の力こそ、これらの活動を次世代に受け継ぐために必要であるはずだ」といった、提言とディスカッションがされた。

このように、一見小さな活動ではあるけれど、視野を広げて時間軸や空間軸でとらえると、実はその活動は環境問題の解決へつながっており、また、そこにこそ若者の力が必要とされているのではないか、という提起がされ、次世代を担う若者に対する期待感を感じさせる報告会であった。



↑<第2回報告会の様子②>

全体として

旭川のような地方都市では、大学生をはじめとする若者たちが、実際に世界で活動しているという話を聞き及んだとしても、実際にそれらを実体験として感じる事が少なく、ゆえに国際会議はどこか「遠い存在」として認識されることが多い。今回の報告会（全2回）で、環境活動がASEAN+3各国の地で行われていることを紹介し、また環境活動と地域、市民、行政などとの関わりが国際的な会議の場で発表されたことにより、ASEAN+3各国においても「自分たちと共通点を持つ若者たち」が活動していることが、（より身近なレベルにおいて）市民、学生、行政それぞれに発信することができた。それによってより海外（の環境活動）と自分たち（の環境活動）の（心理的、社会的な）距離を縮めることができたと考えている。

*1：旭川ウェルビーイング・コンソーシアム 連携公開講座 「市民のための公開講座」第5回講座として開催。

ステイトメント（原文）

STATEMENT ON ASEAN PLUS THREE YOUTH ACTIONS ON ENVIRONMENT

1. We, the 140 ASEAN Plus Three Youths, selected on the basis of our contributions and commitments to youth environmental activities, were honored to participate in the ASEAN Plus Three Youth Environment Forum 2010: Creating a Climate for Change held on 22-25 April 2010 in Brunei Darussalam. We appreciated the opportunity to share information and experiences on environment and climate change.
2. We recalled the ASEAN vision to realize an ASEAN Community that is people-centred, socially responsible with a view to achieve solidarity, unity and a common identity. We also hope to build a sharing and caring society which is inclusive and harmonious where the well-being, livelihood, and welfare of the people are enhanced.
3. We are fully aware of the impact of environmental degradation, in particular climate change on the survival and livelihood of local communities and are alarmed by the exploitation of natural resources and loss of biodiversity in all parts of the world.
4. We recognize that the youths can play an important role in advocating environmental messages to the community through their active participation in environment-related activities to safeguard the environment for the benefit of the present and future generations.
5. We recognize the paramount importance of our participations, contributions, and stewardship roles in conserving and protecting the environment hand-in-hand as we will be leaders of tomorrow, who will shape the future of our societies and cultures to make our world sustainable.

6. We brainstormed and shared our concerns, challenges and experiences in our respective countries, and resolved to play our part in addressing environmental issues. We commit ourselves to undertake the following ten activities in our region and respective countries:

1. Environmental Amazing Race is a cycling contest to promote the use of bicycles as a mode of everyday transport and to appreciate nature.
2. Environmental Exchange Programme for youths from the different countries to share knowledge and best practices
3. Green Curtain where plants are grown on the base of windowsills or from the top of windows to reduce carbon emissions and help cool the room
4. ASEAN Plus Three “Green Day” where ASEAN Plus Three people will wear green outfits and conduct green activities
5. Eco Bags is a simple campaign to approach the public to use eco bags instead of plastic bags.
6. Eco-friendly Competitions where environment related contests are launched in schools to showcase the abilities, talents and creativity of students and depict their responsibility for the protection and conservation of nature
7. Lunch Box Day is a day to avoid the usage of plastic wares as personal lunch boxes will be used for meals
8. Social Networking where people are able to be updated on each countries’ environment-related activities via Facebook
9. “No Motor” Campaign where people will not drive their cars and instead use public transport in a particular day within a week.
10. Save One Cup of Water for You and for Me is_a water saving contest to nurture the sense of appreciation to natural resources and encourage people to save water.

7. We also resolved to raise public awareness and environmental activism among the public. For this purpose we have agreed on the following slogans which we shall promote to our peers and the general public.

1. Green Nature for the Future
2. Don't be an Intruder, be a Green Lover!
3. Echo the Eco
4. Plastic bags are so last year. Reusable bags are here
5. Youths are the future generation. Let's work together to save the nation
6. S.T.O.P (Stop Today Or Pay)
7. There is no PLANet B
8. The Earth doesn't live because of us, we live because of the Earth
9. One Earth, One Chance
10. W.A.T.E.R (**We Are The Earth Rescuers**)

8. We pledge to follow up on activities that we have proposed during the ASEAN Plus Three Youth Environment Forum 2010 and take actions by adopting an environmentally friendly lifestyle to the best of our own ability in our respective countries.

9. We commit to ensure that the forum objectives are met, even after the conclusion of the forum. Everyone has a role to play and we will do our utmost to help sustain our environment.

10. We participated in a climate change negotiation simulation exercise to understand the complexity of the negotiation process, especially in reaching a consensus among different interest groups. We were made aware of the constraints and different situations that these interest groups are facing, and how important it is to compromise to reach an agreement.

11. We are aware of the importance of sustainable networking among our peers in the ASEAN Plus Three countries in order to update ourselves on new activities that we implement in our everyday life for the environment in our respective countries. Thus, we agree to make use of the ASEAN Environmental Education Inventory Database, and also social youth networking tools like Facebook, Twitter, and Youtube, to sustain our network.

12. We thank the Government of Brunei Darussalam, in particular the Department of Environment, Parks and Recreation, Ministry of Development, supported by the Ministry of Education and in cooperation with the ASEAN Secretariat, for hosting and organising the ASEAN Plus Three Youth Environment Forum 2010. We also thank the Government of Brunei Darussalam and the Government of Japan through Japan-ASEAN Integration Fund (JAIF) for extending financial support to make this Forum possible.

13. We, the ASEAN Plus Three Youths attending the ASEAN Plus Three Youth Environment Forum 2010, hope that ASEAN Youth Environment Forum will be sustained and continued to engage and empower youths.

ステイトメント（日本語仮訳）

ASEAN+3 ユース環境アクション 声明文

1. 私たち、ユース環境活動への貢献度と関与度から選出された ASEAN+3 各国 140 人のユースは、2010 年 4 月 22 日—25 日にブルネイ・ダルサラームで開催された「ASEAN+3 ユース環境フォーラム 2010: Creating a Climate for Change」に参加できたことを大変光栄に思います。環境および気候変動に関する情報や経験を共有する機会に非常に感謝しています。
2. 連帯、調和そして共通のアイデンティティを得ることを視野に、人間中心で社会的責任のある ASEAN 地域コミュニティを実現するため、私たちは ASEAN ビジョンを思い起こしました。さらに私たちは、調和がとれ、すべてを受け入れようとする分かち合いと思いやりの社会が構築され、人々の健康、生活、そして福祉が高められることを願います。
3. 私たちは、環境の劣化、特に気候変動の影響が、地域社会の生活と生存に関わる問題であることを十分に認識しており、世界中で起こっている天然資源の開発と生物多様性の喪失に危機感を募らせています。
4. 私たちは、ユースが、現在、そして未来の世代の環境を守るため、環境に関わるメッセージを地域社会へ届ける重要な役目を担っており、ユースの環境関連活動への活発な参加によってその役割を果たすことができると認識しています。
5. 世界を持続可能にしていくための未来の社会や文化を形成する明日のリーダーとなるべき私たちは、みなで協力して行う環境を保全・保護する活動を行っていくにあたり、私たち自身の参加、貢献、そして管理が最も重要であると認識しています。
6. 私たちは、アイデアを出し合い、各国の抱える懸念事項、問題点、そして経験を共有しました。そして、環境問題の解決にむけ、自分たちの役割を果たす事を決議しました。私たちは、参加各国や地域において下記の 10 の活動に取り組むことを約束します。
 1. **Environmental Amazing Race:** 自転車を日々の移動手段として使用するよう促し、また自然に感謝するために行う自転車競走コンテストです。
 2. **Environmental Exchange Programme:** 様々な国のユースたちが知識を共有し、先進事例を学ぶための交流プログラムです。
 3. **Green Curtain:** 窓の下枠や窓の上から植物を成長させることで、二酸化炭素排出を減らし、部屋を涼しくする助けとなります。

4. ASEAN Plus Three “Green Day”: ASEAN+3 の国々で、人が緑色の上着を着て、環境活動を行う日を設けます。
 5. Eco Bags: レジ袋の代わりにエコバックを使うように呼びかけるキャンペーンを行います。
 6. Eco-friendly Competitions: 学生の能力や創造性を示すとともに彼らの環境保護への責任を表すために、環境コンテストを学校で立ち上げます。
 7. Lunch Box Day: 使い捨て容器の使用を避け、個人の弁当箱を使う日を設けます。
 8. Social Networking: 各国の環境関連活動を Facebook を用いて共有し、更新できるように整備します。
 9. “No Motor Campaign”: 1 週間のうちに、人々が車を使わずに公共交通機関を利用する日を設けます。
 10. “Save One Cup of Water for You and for Me”: 天然資源に感謝するとともに、人々の節水感覚を養うための節水コンテストです。
7. 私たちは、一般の人々へ意識啓発をし、実際に環境行動を起こさせる取り組みをすることを決議しました。この目的のために、私たちは、同世代や一般社会に普及させるべき以下のようなスローガンについて合意しました。
1. “Green Nature for the Future” (緑の自然を未来に)
 2. “Don’t be an Intruder, be a Green Lover!” (環境の侵略者にならず、緑の愛好家になろう！)
 3. “Echo the Eco” (エコをこだませよう)
 4. “Plastic bags are so last year, Reusable bags are here” (ビニール袋は時代遅れ、再利用できるバッグがここにはある)
 5. Youths are the future generation. Let’s work together to save the nation (ユースは未来の世代。一緒に守ろう！)
 6. S.T.O.P (Stop Today Or Pay) (今日止めるか、さもなくば代償を払うか)
 7. There is no PLANet B (“代わりの地球”はない)
 8. The Earth doesn’t live because of us, we live because of the earth (私たちのおかげで地球が活着ているのではなく、私たちは地球があるから活着ている)
 9. One Earth, One Chance (ひとつの地球、1 回のチャンス)
 10. W. A. T. E. R (We Are The Earth Rescuers) (私たちは地球の救助隊)
8. 私たちは、ASEAN+3 ユース環境フォーラム 2010 で提案した活動を追求し続けることを誓います。また、参加各国で私たちの能力の限りを尽くして環境に優しい生活を広める活動をするを誓います。

9. 私たちは、例えこのフォーラムが終わった後でも、フォーラムの目的を満たすために努力します。すべての人が担うべき役割があり、私たちは私たちの環境を維持するために最大限の努力をしていきます。
10. 私たちは、気候変動に関する交渉に関するシミュレーションを、交渉過程の複雑さを学ぶために行いました。特に、異なる利害グループ間での合意形成です。そして、各利害グループが面している困難な状況や制約条件、また、妥協するということが合意達成に向けいかに重要かということに気付きました。
11. 私たちは、各国が日常生活で取り組む新しい環境活動に関する情報を更新していくために、ASEAN+3 におけるユースの持続可能なネットワークの重要性を認識しています。従って、私たちは、ASEAN 環境教育目録データベース(ASEAN Environmental Education Inventory Database)、そして Facebook, Twitter や Youtube などのソーシャル・ネットワーク・サービスを利用することで合意しました。
12. ブルネイ・ダルサラーム国政府、特にブルネイ開発省、環境・公園・レクリエーション部門、同国教育省の支援と ASEAN 事務局の協力の下、ASEAN+3 ユース環境フォーラム 2010 の主催と開催に対して感謝いたします。また、ブルネイ・ダルサラーム国政府と日本政府に対し、日本 ASEAN 統合基金を通じた本フォーラムにかかる経済的支援に対し、感謝いたします。
13. 私たち、ASEAN+3 ユース環境フォーラム 2010 に参加した各国のユースは、ASEAN ユース環境フォーラムが引き続き開催され、ユースに力を与え続けてくれることを望みます。

日本のカントリープレゼンテーション

ASEAN plus three Youth Environment Forum
"Youths and Climate Change: Creating a Climate for Change"

Country Paper Presentations from Japan

-From Local Actions to the Global Platform-

Japanese Youth:
Shogo Uehara, Sachiyo Tatebe,
Kaori Tateishi, Ikuho Takao, and Hiroki Sato.

Our Self-Introduction

We have performed environmental activities in each areas.

<http://sozai-shu.seesaa.net/article/119066897.html>

Activity①

Restoration activities of Satoyama by a student group

What is Satoyama?

- Rural areas in Japan
- Beautiful landscape
mountains, forests, terraced paddy fields,
crop lands, ponds, and
traditional houses with thatched roof

Why is Satoyama important?

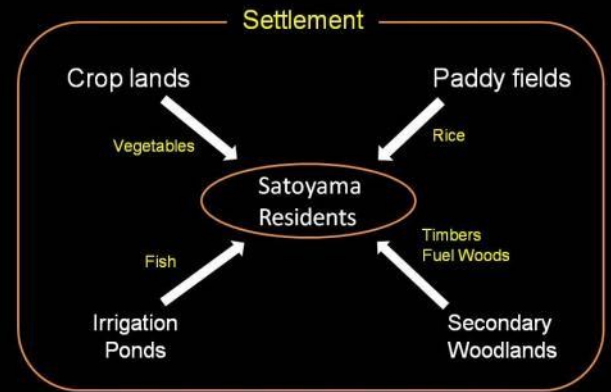
- Biodiversity hotspot
multiple ecosystems and multiple organisms
- Maintained by Sustainable lifestyle
Moderate resources utilization
Coexistence with human beings and nature

Multiple ecosystems and multiple organisms

Why is Satoyama important?

- **Biodiversity hotspot**
multiple ecosystems and multiple organisms
- **Sustainable lifestyle**
Moderate resources utilization
Coexistence with human beings and nature

Sustainable Lifestyle



The crisis of Satoyama

Causes

1. Aging society
2. Depopulation in rural area
3. Lifestyle change

Harvest mouse



Impacts

- Degradation of biodiversity
- Collapse of local community
Disappearance of traditional customs
Abandonment of crop lands

Activities by a student group

Cutting bamboo grass



Cultivating rice plants in terraced paddy fields



Restoration of traditional houses



Result

- Improved biodiversity
- Activating local community
- Bringing down local customs to the next generation

Activity② British Council International Climate Champions



British Council International Climate Champions



Youth Network for climate change.

Events

- Conference
- Camp
- Workshop etc.



Projects

- Eco school Project
- Eco cooking
- SENSU Project
- Green curtain etc.



My Project: SENSU Project



Activity③

ECO-UNIVERSITY RANKING



ECO-UNIVERSITY RANKING

- gave ratings to 107 universities and ranked them
- researched from a view point of climate change
 - reduction rate of CO2 emission and energy use
 - concrete actions toward climate change
 - enlightenment and education etc.



Results of the research

1. cooperation between school personnel and students
2. structure to promote the action

1. cooperation between school personnel and students

- enlightenment and education
class for environmental education
- do environmental action in cooperation
impose a fee for a plastic bag and buy clean energy
- introduce energy-efficient facilities

2. Structure to promote the action

means to motivate people

- reduced heating and lighting cost go to research and education budget
- audit the result of the activity and publish it
- give credit for the activity to students

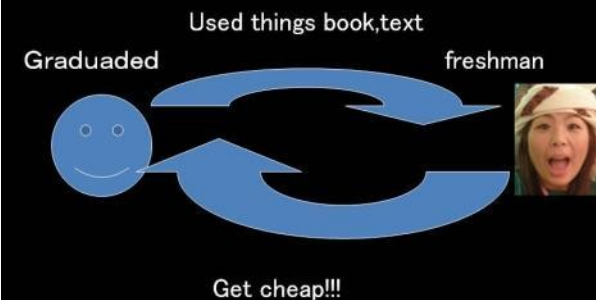
Activity④

Ikuho's eco-friendly day

Using bicycle



Eco Chari Project



Bring water bottle & Lunch box



Book & FreePaper

- Act & study eco-friendly

⇒

Promote & share & spread it

Click fundraising



× 7



Until now donation gather

US \$ 121,915

Activity⑤

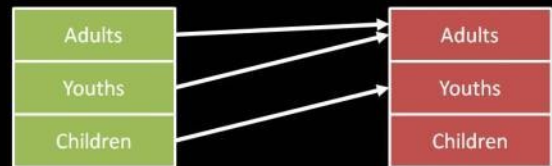
Environmental Educations



Background: Japanese Networking and Education

Current

... 10 years later



Education for Next Generation are needed
for sustainable development



Workshops



Education for Local Citizens

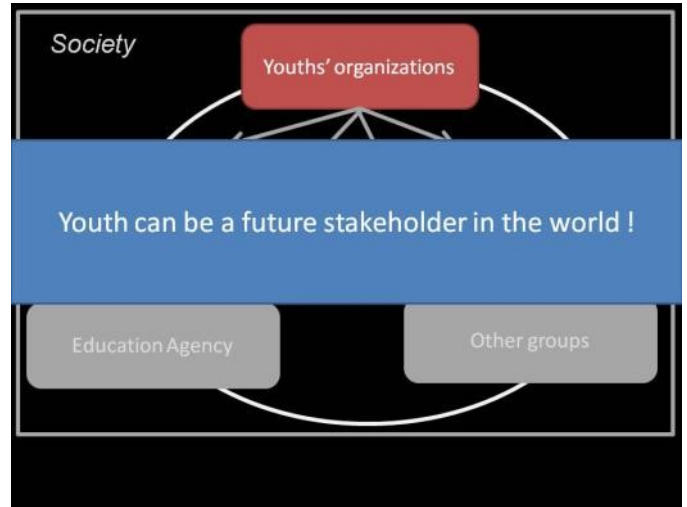
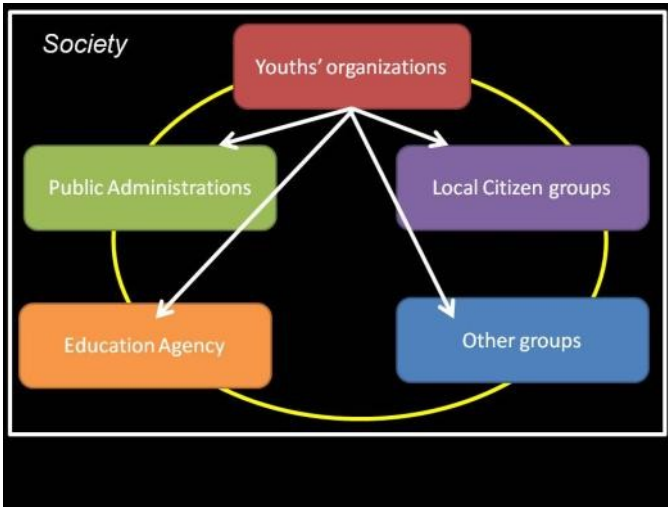


Education for (High School) Students



Survey

Japanese Networking and its efficiency



Japanese Networking

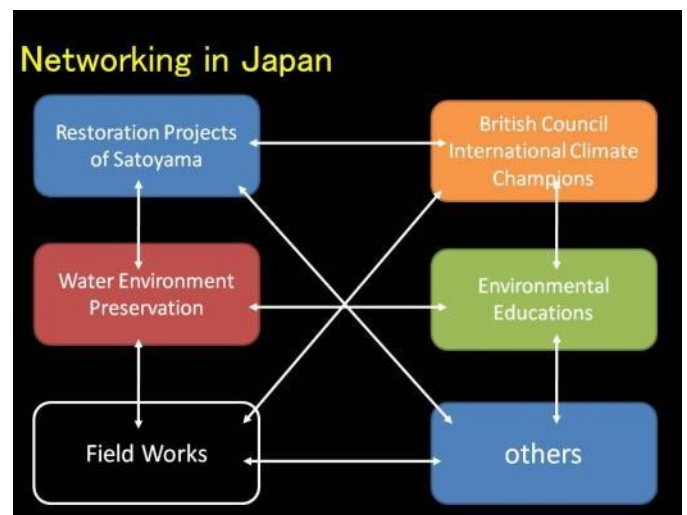
Each activities are carried out under close cooperation with citizens, local administrations, or other students

e.g.)

- Restoration Projects of Satoyama
- The British Council
- Environmental Educations

We aspire to communicate each other

•For effective activities
•Be motivational for both parties



Japanese Networking and Education

e.g.)

- Restoration Projects of Satoyama
- The British Council
- Environmental Educations

All of them have each characteristic factors

- Peer Teaching Skills and Programs
- Education for next generations
- Communication technologies

We should share and take in these advantages of each activities

Our Message

Let's share our/your knowledge, skills and experience!

... For future environment and prevent Climate change

Preserving the local environment

-restoration project of satoyama

A restoration project of Satoyama(domestic woodlands) has been implemented in an area of Japan. The members of the project are local residents, NPO, students, professionals, companies, and so on, and each member worked closely with each other. Especially students had an important role in the project: cutting bamboo grass, restoring traditional houses, and



cultivating terraced paddy fields. As a result, the environments of Satoyama have been properly maintained and biodiversity of Satoyama has been improved.

International activity

-international climate change champions



use it rather than an air conditioner.

As a climate leader at the international youth program, we did activities and had discussion with other youth of the world. For example,at the sensu project, Japan youth introduced *sensu* (traditional Japanese fan) and appealed to

Education to younger generations

-environmental education at wetlands



The college level youth can be a good role model for the younger children, as they are closer to junior high or elementary school students. We also believe that it is essential to know the preciousness of the local nature resources in childhood. Therefore, though field activities, workshops and fun games we tried tell the importance and ways to presearve the nature resources.

Japan country paper

Share experiences & knowledge
And
Work together!

activities at universities

- Challenges to cope with climate change

In order to achieve effective and continuous actions toward climate change at universities, it is important to make the system for cooperation between school authorities and students based on the understanding of the present situation. In order to achieve these things, we held *eco campus tour* by: school personnel, students and energy efficiency expert. We looked around the campus and tried to find problems in energy efficiency. After that we had a discussion about how to solve it.

